

グリーンクラブだより

～2018年夏号～

グリーンクラブのみなさまいかがお過ごしでしょうか。今年は本当に厳しい暑さが続きますが、体調管理に気を付けて無理のないようにしてください。いつもお花のお世話をしていただき、ありがとうございます。

今年度新しく配布しましたナデシコとバーベナのお手入れについて

～ナデシコ～



◎日常の管理◎ナデシコは日当たりのいい水はけ、風通しの良い場所を好みます。葉がたくさん出て株がどうしても蒸れやすくなるので、密に植えないほうがいいです。葉がたくさん生い茂っていたら少し葉を摘んだり、黄色くなった下葉をこまめに取り除きます。花がらも摘みましょう。

加湿を嫌うので、乾いたらたっぷりと水をあげます。風通しが悪いと灰色かび病やさび病などが出やすくなります。また、蒸れを防ぐために葉には水をかけず、株元に与えるようにしてください。1年草あつかいですが、霜よけなどをして、うまく冬をこせれば来年度も花を咲かせます。



◎さし芽・株分け◎4月から6月か、9月から10月にさし芽でふやします。花芽のついていない若い芽を切り取って1時間ほど水に浸けます。水から挿し穂を取り出したら、用土を入れたポットに挿し穂を挿します。2週間から3週間ほどが経過し、十分に根が張ってきたら、鉢や庭などに移します。株分けで増やす場合は9月から10月が適しています。株は張りがあって元気なものを選び、芽が3つほどそれぞれの株につくように手で分けます。株分けを終えたら根を広げ、ポットや鉢に植え、根が張るまでは日陰で管理します。

～バーベナ～

日当たりと風通しのよい場所で育てます。また、乾燥には強い反面、多湿を嫌います。植えつけ後に水をたっぷりと与えたら、その後はほとんど不要ですが、真夏に葉色が薄くなるほど乾いたときには、たっぷりと水やりします。花がら摘みは、最後の小花が咲き終わったら、花茎のつけ根から切り取ります。草姿が乱れたとき、または、8月中・下旬に切り戻しを行います。切り戻す位置は草丈の1/2～1/3の各節の上で、葉を数枚残して切ります。切り戻し後1週間から10日でわき芽が伸び始めます。



～お詫び～昨年度末にお配りしたグリーンクラブだよりでは、宿根草なので霜よけをして冬ごしをしましょう、とお伝えしましたが、一年草のバーベナを配布することになってしまいました。秋（11月）の配布で植え替えをしてください。

秋に向けて種まき

秋まきの一年草の多くの発芽適温は 15～20℃。

9月下旬から 10月下旬ですが、8月にまける種もあります。

～8月中に種をまきたい種類～

種類：パンジー、ビオラ、ハボタン、ストック、アリッサム、キンギョソウなど

理由：8月中にまけば、年内に開花します。ストックやキンギョソウは早生品種を選びます。

～発芽適温になってから種まきする種類～

種類：スイトピー、ヒナゲシ、アイスランドポピー、チドリソウ、ネモフィラ、ワスレナグサなど

理由：早くまいても春にならないと花が咲きません。チドリソウ、ネモフィラ、ワスレナグサなどは気温が高いと発芽が極端に悪くなります。

～コスモスやケイトウも今すぐまけば、秋に花が咲きます～

8月中に種をまくと、11月ごろから開花し始め、霜が降りる時期まで楽しめます。種が残っていたら、やってみてはいかがでしょうか。

涼しい季節はやってくる！秋の種まきに挑戦してみよう！



種まき後の管理

用土は十分に湿らせて、種まきをします。鉢皿を敷いて新聞紙をかぶせ、新聞紙を霧吹きで湿らせます。湿らせることにより気化熱で温度を下げることができます。

→直射日光の当たらない、なるべく涼しい場所で管理します。

→発芽したらすぐに新聞紙を外します。8月中は風通しのよい明るい日陰に置きます。

土が乾かないよう霧吹きで水やりをしますが、徒長するので、やりすぎに注意します。

→発芽から2～3週間、本葉が3～4枚になったらポットあげをし、11月中には花壇に植え付けします。

◎油面菜の花プロジェクト実行委員会グリーンクラブからのお知らせ◎

昨年配布しました城南コマツナの種を今年も配布します。欲しい方がいらっしゃいましたら、みどりと公園課までお知らせください。

城南コマツナは目黒、世田谷、大田区等の城南の暖地向きの固定種の江戸東京野菜です。油面菜の花プロジェクト実行委員会グリーンクラブでは、地元で育てられていたコマツナに



今年の春の屋上庭園の様子

こだわって栽培しています。菜の花として育てても、間引き菜を食べてもおいしいそうです。この秋、みなさんも育ててみませんか。

ご意見・お問い合わせはお気軽にどうぞ

目黒区みどりと公園課利用係

Tel: 5722 - 9242 Fax: 3792 - 2112